

# 人形芝居と脚本一つ

千葉縣女子師範學校附屬幼稚園保母

渡 部 さ よ

過ぐる頃かねてからの希望であつた人形芝居の記事をお茶の水女高師附屬幼稚園からのせていただきまして嬉しく拜見いたしました。私共の幼稚園でも前々からの希望では御座いましたが何分にも費用のない爲に相當困難なものと思はれて中々手が出ませんでした。しかしどうしても何とかやつて見たくて、頭を悩ましてゐたので御座います。それが一寸した思ひつきで簡單に作る事が出来まして只今では子供達から大變喜ばれて居ります。もつとも完全なものでは御座いませんが子供等には何よりの楽しみと見えます時々「先生今

日はお芝居やらないの？」先生お芝居まだ？」等と催促されて同じ物をくりかへしてやる様な次第で御座います。

それで方々の御園でも各々御立派な物をお造りになつて居られると思ひますが、又中には私共の様に費用の心配からお手の出せない方も御ありかと存じまして、私共の様に僅かな費用でも、不完全なものでも、とに角子供達にお芝居見物の實際の面白さを味はせる事も出来ますのであまり御参考にもならないと思ひましたが、一寸簡單にのべさせていたゞきました。

舞臺は襖の間（或は窓、障子等）を二尺位明けて其の間へ巾の狭い机をおきます。机の上にはポール紙で造つた舞臺の正面をのせます。そして舞臺の上と机の脚とを黒布又は紙でかくします。机

から後へ二尺位はなれたところへ（人が二人位入れる程度）衝立をおきます。これはバックを貼る爲ですから、適當の物てよろしいと思ひます。そこへ背景を終りの場面から順に上だけ鉦でとめます。そして一幕終る度に後へかへしますと幕の間が短かくて都合よい様に思はれます。こんな風にしたしますといくらも費用をかけないでほんの紙代で出来上ります。しかしこれは室内にかぎられませんし又室の具合にもよりますので何とか他の方法を考へて庭の樹蔭にでもこしらへられる様に致したいと思ひまして一寸材料を見積りましたところ、舞臺だけならばその體裁次第で三圓五十錢位から十五圓位まで出来上りますので何とか物に

してなるべく感じ易い物を造りまして遠からず小供等を喜ばせ、又私達の希望してゐた事を實現したいと考へて居ります。

人形の事については女高師附屬幼稚園の方から詳しい御發表が御座いましたので、私の方のは申し上げる程のもでも御座いませんから簡單に御知らせいたします。私の方では最初紙人形（畫用紙へ人物を畫き切り抜いた物）その他玩具等から取つて使用いたしてありましたが最近では布人形をギニョール式に造りましてやつて見ましたところ平面の物と違つた面白味がありことに體が動くので大好評で御座います。人物以外の物は大抵玩具を使用して居ります。

脚本の材料は昔ばなし、童話等から子供の喜びそうな物を選んで私達のお芝居に都合のよい様に（人形背景其の他を造る上に）作るので御座いま

すから勿論立派なものでは御座いません。時には自分ながら小首をかしげる様な時も御座います。有がたい事には始終子供等から喜ばれてまゐりました。次に二つ程書きましたから、どうぞ御批評下さいませ。(二つは來月掲載)

## 浦島太郎

第一幕 場所 海岸(夕方)

人物 浦島太郎 カメ

唱歌「むかしむかし浦島は子供のなぶるかめを見て」

歌の途中で開幕更に一番の終りまで唱歌をついでける。

歌終りて浦島登場(腰にみものをつけ釣り道具を持つ)

浦「ずいぶんいゝお天氣だなあ 今日はこのなにな

お魚が澤山つれてうれしいなあ、一寸この邊で休

むとしやう」

舞臺の中央に坐を取る

浦「今日はなんていゝ日だつたらう 誰かお友達

はこなかつたかしら こんな日に皆出かけて来る  
といゝんだがなあ」

下手よりカメの聲のみ



龜「浦島さん  
浦島さん」

浦「はてな私  
を呼んだやう  
だけど 誰か  
しら？」

龜「浦島さん  
こゝで御座い  
ます」

浦島の近くへ進む

浦「やあ誰か

と思つたら君はこの間の龜さんじゃあないか」

龜「はいそうです この間はどうもありがたうご  
さいました」

浦「なんだ君は又こんなところへ出て来てまたこの間の子供達にいじめられたら大變じやないかさあ早く海の中へおかへりよ」

龜「はい、でも浦島さん今日はあなたにお禮が申上げたくてこゝまでさがしにきたのです」

浦「あゝ僕を見つげに來たのかい、それならいゝけど、僕も誰かお友達をさがしてゐたんだよ、まあこつちへ來たまへ」

龜浦島に近よる

龜「浦島さんは海の中を知つてゐらつしやいますか？」

浦「いや、知らないんだよ、だけど海の中が見たくて見たくてならないんだよ」

龜「では私がおつれいたしませうか」

浦「だめだよ僕なんかにはとても行けないもの」  
龜「いゝえ大丈夫です。ではこの間のお禮に私が海の中を御案内いたしませう。海の中には色々な

お魚がいつばいゐて面白いんですよ。又龍宮城といつてそれはそれは立派な御殿があつて其の中にはきれいなお姫様がいらつしやいます。今日はそのお姫様のおつかひであなたをお迎へに來たのです。さあどうぞ私の背中へおのり下さい。」

浦「ほんとかい、ほんとに大丈夫なのかい」

龜「大丈夫ですとも、さあ早く私の背中へおのり下さい」

浦「ぢやあたのもう、だけど何んだかこわいなあ」

浦島龜の脊に乗り海の中へ入る(同時に唱歌)

唱歌「浦島太郎はかめに乗り波の上やら海の底鯛しびひらめ  
かつをさば群がる中をわけてゆく」

(幕)

## 第二幕

場所 海の中(夕方)

人物 龜、浦島、其他お魚達

開幕と同時に樂器だけで浦島の曲を二回(この間色々な魚あ

ちこち往來する。曲が終つて龜に乗つた浦島が現はれる。

浦「やあ面白いなあ、ずいぶん澤山お魚がいるなあ、ああそこに鯛が！」



龜「浦島さん

面白いでせう

あれは皆海の

中の私のお友

達ですよ。今

に龍宮城から

お迎ひのお魚

さん達も来る

でせう。まだ

まだ不思議な

ものがたくさ

んありますよ。おちない様にしつかり私のせなか

に乗つてゐるとしやい」

浦「もつと不思議なものがあるつて、なんだろう

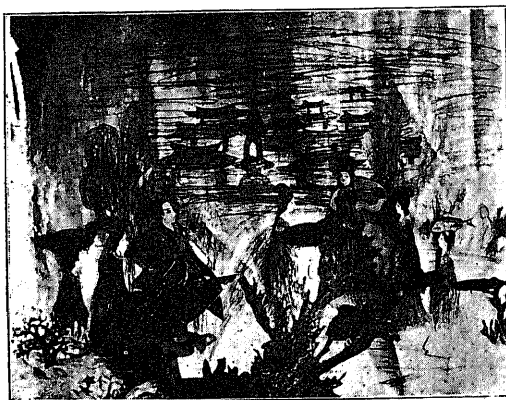
早く行つて見たいなあ」

話の間浦島を乗せた龜は海の中(舞臺)を往復する又色々のお魚があちこちする(樂器使用)

### 第三幕

場所 海の中(龍宮城の遠景)

人物 龜、浦島、迎へ魚其の他



(幕)

開幕と同時に

浦島龜にのり

て登場(前と

同じく始終魚

達往來する)

龜「浦島さん

もうすぐです

よ、あそこに

きれいなお家

の屋根が見え

るでせう、あ

れが龍宮城なんですよ」

浦「あ、ほんとにきれいなお家が見えるね、ほんとにきれいだ海の外にはあんなきれいなお家はな  
しよ、きれいだなあ。早く行つて見いなあ」

波間を色々の魚達往來して後、乙姫様の迎ひ魚登場

龜 あ、ヒラメさん、カレイさん、鯛さんもお迎ひ？御苦勞様、浦島さんをおつれましたよ」

迎魚「龜さん、御苦勞様、浦島さんいらつしやいませ。乙姫様も先程からお待ちかねでございます。どうぞもうすこし龜さんに乗つて私についていらして下さい」

浦「やあ。お魚さん達ありがたう、もう龍宮城なの、君達はいいなあ、一人であるかれて……」

魚達に案内されて浦島退場(この間も始終魚往來する)浦島が見へなくなる頃から樂器のみ(浦島の曲)

——(幕)——

#### 第四幕

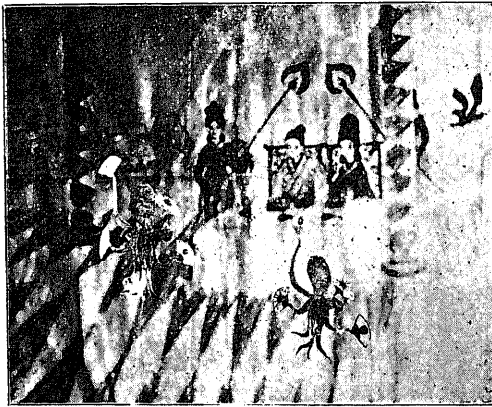
場所 龍宮城内の大廣間

人物 乙姫、浦島、たこ、その他

唱歌「見れば驚く唐門やさんごの柱しやこの屋根……夜も  
かじやく奥御殿(唱歌の途中で開幕)

浦「乙姫さんずるぶん御馳走になりましたね。お魚さん達は踊りや唱歌がずるぶんお上手ですね」

乙姫「浦島さん、お氣に入りましたか。御馳走もまだ澤山ございます。どうぞごゆつくり召上つて下さい。今度はたこおどりでもごらんに入れませ



う

浦「え？ たこどりですつて？ どんなでせう。僕まだ見た事ないんですよ」

乙姫「それではすぐお目にかけてませう（おっきの魚達にむかって）お前達はたこをつれてゐらつしやい」

魚「はい、かしこまりました」直ぐにたこ登場

乙姫「たこや、浦島さんにお前の上手なたこどりをお目にかけてなさい」

たこ「はい、かしこまりました」直ちにたこ樂器又は

レコードによつておどりはじめる、やがておどりつゝ退場

浦島「あゝおもしろかつた。乙姫さんもう一度見せて下さる」

乙姫「はい、お前達はもう一度たこをつれていらつしやい」

魚「はい、かしこまりました」直にたこおどりながら登場（樂器又はレコードによる）終りて退場

浦「あゝおもしろかつた。ほんとにおもしろか

つた」

乙姫「まだいろいろ面白い事がありますけれど、も又この次に致しませう」

——（幕）——

## 第五幕

場所 龍宮城前海の中（第三幕と同）

人物 乙姫、浦島、龜、其の他

唱歌「乙姫様のお氣に入り浦島太郎は三年を……………」

我家こひしくなりにけり」唱歌終りて開幕

浦「ずゐぶん永い間お世話様になりました又お土産までいたゞいてほんとにありがとうございました。おた。」

乙姫「浦島さん又きつといらしつて下さいね。私達は一生涯懸命お仕度をして待つて居りますわ。そしてその玉手箱は今度いらつしやる時まできつとおあけにならないで下さいね」

浦「えゝきつとあけないで大事に持つてまゐりま

か。でわ皆さんごきげんやう、さようなら」

乙姫「さやうなら 又きつといらしつて下さいね

かめさんきをつけて御伴して下さいよ」

魚「かしてまりました」

浦「皆さん、さやうなら」

乙姫  
魚「さやうなら」

直ぐに龜、浦島をのせて波間を往來し退場する(乙姫魚達は舞臺に立つたまゝで見送る)

幕の終り頃より樂器にて浦島の曲聞へ幕を閉ぢてやゝしばらくで終る。

—(幕)—

### 備考

浦島太郎の劇で一番考へさせられましたのは二幕以後の海の中と、どうして浦島と龜を泳がせるかといふ事でした。海の仕組にはまづバックに海

底の様子を表はし中間、手前等にサンゴ其の他の海草類をおきました(遠近をつけて)魚は畫用紙へいろ／＼の魚を畫き切り抜いたものへ細い針金をつけて海底水中を泳がせ、浦島、龜も同様に紙で造り龜の背中へ浦島をさし込み、龜のお腹の下から手を入れて(手は龜と同色の布で覆ひます)水中を泳がせました。どちらも子供等から大變喜ばれました。御參考までに寫眞を添へましたから、どうぞ寫眞を合せて御覽下さいませ。